

令和4年度 特色ある教育・経営の取組みを行う私立学校の事例集

学科連係課程の構築

短期大学で初となる先駆的取組

学校法人純美禮学園

滋賀短期大学

滋賀短期大学

滋賀短期大学は、大津市の南、日本一の大きさを誇る琵琶湖を見渡せる緑豊かな丘の上にあります。

同短期大学は、大正7(1918)年に設立された松村裁縫促進教授所を母体とし、昭和45(1970)年に「滋賀女子短期大学」が開学、平成20(2008)年に男女共学化したことに伴い「滋賀短期大学」と改称され、令和2(2020)年に創立50周年を迎えました。



滋賀短期大学

設置者である学校法人純美禮(すみれ)学園の創設者である中野富美先生(しんぎいちによ)の下、豊かな教養と実践的な専門の知識と技術を培い、デジタル化社会を迎える新時代において、地域社会の発展と文化の向上に貢献す

る人材を育成することを目的として教育研究を行っています。令和3(2021)年度までは、生活学科、幼児教育保育学科、ビジネスコミュニケーション学科の3学科を擁する短期大学として地域の人材養成に貢献してきました。

【学科連係課程の導入の経緯】

日本全体の出生率の低下や就職先として保育業界の人気の低迷していることから、保育関係の学科を持つ学校の学生確保は厳しい状況です。

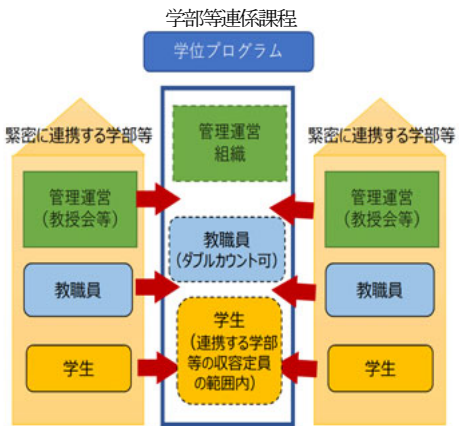
同短期大学も例外ではなく、学内を活性化させるため、今の時代に沿ったDX分野の新たな学科の設置を構想していました。しかし、従来の設置基準に従い、一から学科を設置するには同短期大学のような小規模短期大学としては困難であり、どのように進めるか検討を続けてきました。

折しも文部科学省が学部等連係課程(大学は学部連係課程、短期大学は学科連係課程、大学院は研究科連係課程と称する)の制度を創設したため、同短期大学は既存の資源を可能な限り生かした形で、内容的には新しい学科を設置しようとして、大学改革の二環として、全国の短期大学で初めて学科連係課程の導入へと踏み切りました。

学部等連係課程の制度とは

大学等における学位の取得に当たり、従来、教育プログラムは「学位」のレベルや分野に応じて達成すべき能力を修得させるように体系化され、教員、学生が所属する「学部」がプログラムを提供することを原則としています。

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」において、「大学には、教員と学生が所属する学部等の組織を置く」とされているが、大学が自らの判断で機動性を発揮し、学内の資源を活用して学部横断的な教育に積極的に取り組むことができるよう『学部、研究科等の組織の枠を越えた学位プログラム』を新たな類型として設置を可能とする」とされ、2019年に大学・短期大学等の設置基準、関連規則が改正され、学部等連係課程の制度が創設されました。



文科省HP: 学部等連係課程(仮称)について(大学設置基準等改正案の概要)

この新しい制度により、急速な学術研究の推進や多様化する社会からのニーズ、研究や教育上の要請に対応し、また、学部間等の協力や資源を一元化して、境界領域や学際領域の教育に機動的に対応できるようになりました。

この方法で、新学科を設置するには、数多くの課題がありました。

まず、制度自体が新しく、短期大学において同課程を導入した前例がありませんでした。大学にはいくつか導入例がありました。短期大学とは規模等が異なるため同じようにはいきません。申請に必要な手続を文部科学省と連絡を取りながら進めていきました。

また、設置する学科の学際横断的プログラムの具体的なコンセプト及び教育内容を、分かりやすく学内外にきちんと示さなければなりません。当初は企画戦略会議で構想されたものを、新たに立ち上げた「新学科設置準備委員会」の中で何度も議論を重ね、形が見えてくるまで時間がかかりました。

一方、取り組みやすかった点もあります。複数の学科を持つだけでも、教育プログラムの内容から連係にそぐわないケースも考えられますが、同短期大学には既存の学科として、ビジネスコミュニケーション学科という多彩なコースを設置するフレキシブルな学科がありました。その中の情報系の分野と生活学科のライフデザイン系の分野を統合し、更に新たにDXの要素を付加する方法で新学科を実現させることができました。

加えて、単独の新学科設置とは異なり、この方法は文部科学省による時間のかかる認可ではなく、届出のみで可能なことも、取り組みやすい点の一つ

でした。

学内でしっかりと議論を重ねた甲斐もあり、全国の短期大学初の試みであるにも拘わらず、約1年間で学科連係課程による新学科を設置することができました。

【デジタルライフビジネス学科の開設】

こうして2022年に学部等連係課程の制度を利用して設置された新学科が、デジタルライフビジネス学科です。既存の生活学科とビジネスコミュニケーション学科の特色を合わせ持ちながら、そこにDXというコンセプトを付加し、新しい分野を開拓する学科です。

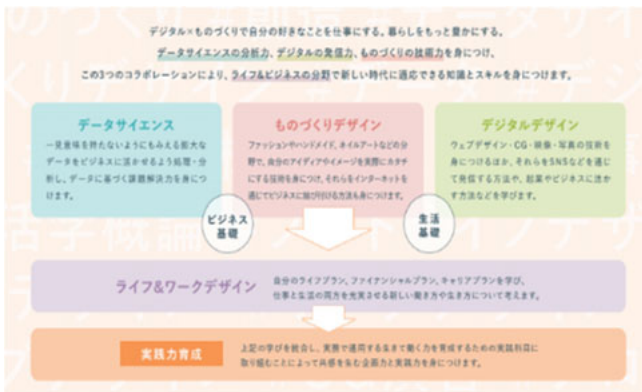
現在、世の中では様々なところでAIが活用されていますが、AIでは代用できない人間ならではの特性として「個性」があります。ものづくりスピードで変化する時代の中でも取り残されないよう、大学は個性を發揮する手段を学生に教育する必要があります。

同短期大学はDX、情報、デジタル、そして個性の実現という意味でのものづくり、これらを合体した力を持つ人材を育成する学科を作りたいという構想から学科設置を行いました。

デジタルライフビジネス学科では、1年生の前期に、コンピュータリテラシー、データサイエンス、ビジネス、生活などの基礎を学びます。また、後期からは、ものづくりデザインを学ぶ「デジタルライフコース」とデジタルデザイン

ンを学ぶ「デジタルビジネスコース」に分かれ、それぞれの専門性を高めます。さらにライフ・ファイナンシャルプランニングやキャリア演習を通して、新しい時代の働き方や生き方について考えます。

「データサイエンス」、「ものづくりデザイン」、「デジタルデザイン」の3分野と「ライフ&ワークデザイン」を学び、さらに最終的に実践力育成科目で実践力を育成することにより「ライフ&ビジネス」の分野で新しい時代に適応できる知識とスキルを身につけます。



デジタルライフビジネス学科の学び

【デジタルライフビジネス学科の未来】

現在、デジタルライフビジネス学科

で取り組んでいる課題は、次の二点があります。

・広報活動

ひとことで「デジタルライフビジネス」と言っても具体的に何のことか、一般的にはあまり知られていません。新学科ということもあり、学科の存在を広く世間に知られるには時間がかかりますが、入試広報センターが近隣の高校をはじめとした外部へ丁寧なアプローチを強化しています。実績を積んでアピールポイントを増やし、学生募集に繋げるまでの流れを作り、世間に少しでも早く認知してもらう必要があります。

また、内部に対しては、改めて学生達へのデジタルライフビジネス学科の先進性やトータルなスキル・学びの意識付けを行っています。

・地域との連携活動

現在、大津市役所と連携し、同市のデジタルPR動画を学生が企画・作成しています。若者は今、就職のため都心に移住することが多いことから、大学の地元大津市に定住してもらう、もしくは戻ってきてもらうための魅力あるPR動画を作成しています。

また、警察署と連携して交通安全の動画を作成する、プロジェクトショップを活用した地域のイベントを企画するなど、幅広いプロジェクトを実施し、今後も地域から必要とされる

存在になりつつあります。

これからは、学科連係課程だけでなく、全学的にデジタル教育の推進を進め、同短期大学の特色にしようと考えています。



授業の様子

く取材を終えて、

18歳人口の減少が続いている中、学生が集まる魅力的な短期大学として存続していくためには、社会の変化・ニーズを敏感に感じ取り、速やかに柔軟に対応していくことが重要です。

滋賀短期大学のように、既存の資源を最大限有効活用し内容的には新しい教育を行う、学部等連係課程の制度を利用するのも、手段の一つです。

制度はまだ始まったばかりですが、今回設置された学科の学生たちの今後の活躍と、同短期大学の今後の発展が非常に注目されます。

(取材)私学経営情報センター